

「百人一首」ってなんででしょう？

「百人一首」は「小倉（おぐら）百人一首」ともいいます。”小倉”とは北九州の小倉（こくら）のことではなく、京都の嵯峨の小倉山（おぐらやま）のことです♪

作者は藤原定家（ふじわらのていか）。

平安時代末期から鎌倉時代初期の頃の有名な歌人です。天智天皇から定家の時代までの優れた歌人100人の短歌を選んだ、いわばその時代までの「ベスト短歌」がこの「百人一首」になったわけです。



作成したのは西暦1235年頃（今から800年前）。「文暦（ぶんりやく）」とか「嘉禎（かてい）」の年号の頃です。

定家が、知り合いの人から、山荘の障子に貼る色紙の作成を依頼され、それでこの百人一首を編集して書いて贈ったそうです。その山荘が小倉山にあったとのこと。

小倉山は渡月橋（とげつきょう）で有名なる京都の嵐山の近くにある山です。（秋の紅葉がきれいらしいです。）

なお、正月に行われる「百人一首かるた」は、上の句（五・七・五）のかるたを読んで下の句（七・七）のかるたを先にぴゅっと取る、という遊びです。

あはれふ地乃みちのそよよもねた
くつろよたいたくまの人の許
かふのやーかたしを侍よたも
いはけえんちるせよの世中よ物
かふとよぶ物のあんなるをいつ
んふかとたきいつ、はしなる
ゆよぬるもよあねま、はると
やうのんくのろの物？わかめあつ
たりむち源氏乃あちやうると

↑藤原定家の直筆と言われている

